

◎特集 1 / 「確かな学力」ステップアップ事業について

◎特集 2 / 「地域産業の担い手育成プロジェクト」(食・暮らしを支える専門的職業人育成事業)について

- 青少年長期自然体験活動事業
～フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」を実施して～
- 平成 22 年度新体力テスト・健康実態調査結果の概要
- モーリス・ドニ いのちの輝き、子どものいる風景
- 北斎の富嶽三十六景 (県立博物館開館 5 周年・葛飾北斎生誕 250 年記念特別展)
- 文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫・・・
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / なかとみ現代工芸美術館、河口湖美術館
- らくがき 甲府市立新紺屋小学校 中込 繁樹教諭
南部町立富河中学校 深沢 裕也教諭
- 「第 8 回わたしたちの研究室」優秀作品の発表と展示のご案内
- 学校紹介 / 南アルプス市立南湖小学校、県立ふじざくら支援学校
- 総合教育センター情報 / 面接相談から「先生、あわてているね」
- まいぶんイベント情報
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 山梨県の建造物について調べる」
- 山梨の文化財 / 登録有形文化財 (建造物) 久遠寺相輪塔
- 主な行事予定



特集1

「確かな学力」ステップアップ事業について

— 義務教育課 —

県教育委員会では、平成十九年度から、全国学力・学習状況調査と関連させ、新学習指導要領で示された学力を向上させることを目指す「確かな学力」ステップアップ事業に取り組んでいます。

今年度は、全国学力・学習状況調査が悉皆方式から抽出方式に変わり、本事業指定校における研究も前年度までに終了しました。また、新学習指導要領が小学校で全面实施となる前年ということ、本事業も新たな局面を迎えることとなりました。

この事業では、国語、算数・数学を対象とした全国学力・学習状況調査（国が実施）及び、理科、社会、英語を対象とした「教育課程実施状況調査（県が実施）」等の結果を総合的に分析し、課題改善のための実践的な研究を行い、これらの成果をもとに作成したプログラムを県下公立全小・中学校に周知し、活用を図ることを目指しています。

さらに、そうした検証―改善サイクルをすべての学校で確立することによって、県下のすべての児童生徒の「確かな学力」の一層の向上を図ることをねらいとしています。

■ 確かな学力の育成に係る実践研究支援委員会（学力向上推進協議会）の開催

本委員会は、山梨県下の公立小・中学校における学力向上のための取組を推進するため、大学教授やPTA、市町村教育委員会の代表の方にも御参加いただく中で、事業内容を検討し、指導、助

言をしていただいています。

今年度は、委員長を山梨大学大学院中村享史教授、副委員長を山梨大学教育人間科学部岩永正史教授に委嘱し、貴重な御意見をいただいています。

■ 授業改善プランの作成

「学力向上推進協議会」の下に「改善プラン作成委員会」を置き、「全国学力・学習状況調査（国算、数）」及び「教育課程実施状況調査（理、社、英）」の結果について分析し、授業を改善していくための方策を提案しています。改善のためのプランは、県全体のデータを全国と比較し、分析した項目ごとに示されています。

今年度のプランの特徴は、全国学力・学習状況調査で実施されている教科、学年だけでなく、全ての教科等や学年で、学力向上のための授業改善のためのプランを作成する際の参考となるよう、分析の視点を統一して作成したことです。

- 【分析の視点】
- ・全体の正答数分布から
 - ・領域別の傾向から
 - ・評価観点別の傾向から
 - ・質問紙調査とのクロス集計から

- 【分析の手順】
- (1)結果を見る
 - (2)分析する
 - (3)課題をあげる
 - (4)改善プランを考える

また、研究指定校の研究成果をまとめた「学力向上プログラム」との関連性も示し、改善のための具体的な取組方法も分かるようにしました。各小・中学校では、授業改善プラン作成の方法

を参考に、自校の児童生徒に対するプラン作成を進めていただくこととなっています。

小・国語

視点2 問題の領域別（評価観点別）の傾向から改善プランを検討する。

(1) 結果を見る

	<国語A>	<国語B>
国語への関心・意欲・態度	県57.8%	県78.9%
話す・聞く能力	県82.2%	県74.5%
書く能力	県65.4%	県92.1%
読む能力	県72.4%	県71.5%
言語についての知識・理解・技能	県84.7%	県71.3%

【問題ごとの結果】

ア. 正答率が低かった問題

①A4「文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く問題」【書く能力】
【短答式】＝県平均正答率57.8%

②A3「文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む問題」【読む能力】【短答式】
＝県平均正答率62.1%

③B3「話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問する問題」
【話す・聞く能力】【選択式】＝県平均正答率69.6%

※①及び②の問題については、全国と比較しても低い状態にある。
①全国との差マイナス2.5ポイント
②全国との差マイナス2.9ポイント

授業改善プランの一部

さらに、今年度からは抽出調査となったため、調査を受けていない学校もあることから、全国学力・学習状況調査だけでなく、各学校が独自に行う学力テスト等からも、児童生徒の素点データと、質問紙調査を行った結果を打ち込めば、全国値と比べて自校の状況が把握できる「集計ツール」も作成し、公開しました。

■ 学力向上プログラムの作成

県下各地域の研究指定校において、取組内容がまとめられ、それぞれ特徴ある大きな成果をあげていただきました。指定校だった学校は次の学校です。

○平成十九〜二十一年度「確かな学力」ステップアップ事業」における研究指定校

(小・中学校各五校、計十校)

- ・北杜市立小淵沢小学校
- ・南アルプス市立白根巨摩中学校
- ・甲府市立舞鶴小学校
- ・甲府市立西中学校
- ・笛吹市立石和西小学校
- ・山梨市立笛川中学校
- ・富士川町立鯉沢小学校
- ・富士川町立鯉沢中学校
- ・忍野村立忍野小学校
- ・上野原市立上野原西中学校

○平成二十〜二十二年度「学力向上実践研究事業」

(「確かな学力の育成に係る実践的研究」) 研究指定校(小・中学校各一校、計二校)

- ・富士川町立増穂小学校
- ・市川三郷町立三珠中学校

これらの学校が学力向上のために研究した成果を「学力向上プログラム」として分かりやすくまとめました。プログラムは、全部で十三の項目で分類してあります。例えば、「学習規律の確立」「繰り返し学習の重視」「学習習慣の確立」「帯学習の実施」「補習学習、学習相談の実施」「家庭、地域との連携、授業の公開」などがあります。

それぞれの項目の下にさらに細かい取組例をあげましたので、全部で45個ものプログラムとなりました。

今後、これらのプログラムを学力向上の取組を考える際の参考にしていただき、県下の全小・中学校に、「一人一実践」「一校一実践」として、効果的な取組を推進してもらおうことを目指しています。

II授業外における取組①家庭、地域との連携、授業の公開
【一歩前進のポイント】
・家庭との連携では、家庭内で掲示できる様式で便りを発行すること。また、「生活チェック」に取り組んでもらう際には学習時間など細かく点検してもらえるよう項目を工夫しよう。

大分類	II授業外での取組	No.37
基本項目	①家庭、地域との連携、授業の公開	
課題	・睡眠不足や食事の偏食など生活習慣がしっかりと身につけていない児童が見られる。	
方策	・家庭での過ごし方や家庭学習がしづかりできない。 ・PTA集会での啓発等、あらゆる機会をとらえ、学力観や学習方法、家庭での指導方法などについてアドバイスを発信し、家庭での生活習慣の確立や家庭学習の習慣化をめざす。	
具体例	・「家庭学習の手引き」を配布し家庭学習のあり方について保護者に伝える。 ・生活チェックカードを配布し家庭での過ごし方について保護者と協力する中で、改善を図る。 ・「健康な体と心の育成」をテーマに全学年で保護者も含めた学習会を実施し、基本的な生活習慣の確立をめざす。	
手引	家庭における児童の過ごし方を見つめると生活習慣の乱れが目立つ児童が少なからずいます。また、家庭学習への取組も家庭によってばらつきが見られます。そこで、家庭学習の習慣化、家庭での生活習慣の改善をめざし、「家庭学習の手引き」や「生活チェックカード」を家庭に配布したり保護者と連携する中で取り組むことは、児童の健全な育成に繋がります。そこで、健康な体を作るための大切なことについて学年ごとに保護者も含めた学習会を開催し、「健康な心と体」をつくるために大切なことについて学習し、保護者と連携する中で家庭での生活習慣の確立や健康な体を育成すること	

学力向上プログラムの一部

ます。

■学力向上の集いの開催

一月末から二月にかけて、県下五カ所において、学校関係者、保護者、地域の教育関係者にお集まりいただき、今求められている学力についてのとらえ方を共有し、その向上のためにそれぞれの立場で為すべきことについて情報や意見を交換する場として「学力向上の集い」を開催しました。

内容は、各地区で研究指定校であった学校等からの発表や学力向上推進協議会の大学教授から、学力向上に向けての家庭での取組についての講演でした。

保護者の代表の方も御参加いただくという試みであり、参加された方からは、「たいへん参考になった」「他の保護者にも今日のお話を聞かせた

い」等の貴重な御意見をいただきました。

■授業力養成講座の開催

県外講師を招聘し、新学習指導要領で求められている学力の育成に資する授業づくり等について学習し、山梨県内の小・中学校教員の授業力の向上を図るため、教員を対象として「授業力養成講座」を開催しました。

昭和町立押原小学校と都留市立東桂中学校を会場に、それぞれ算数科と数学科の授業を行い、国立教育政策研究所の調査官の先生を講師としてお招きし、充実した内容の研修を行うことができました。両日ともに参加者が教室に入りきれないほどの盛会となり、「来年



授業力養成講座 (東桂中)

度はもつとこういう機会を増やして欲しい」という声が多く寄せられました。

平成二十二年度に実施した主な取組について簡単に紹介しましたが、これらの成果をまとめ、次年度においてもさらに充実した事業内容としていきたいと考えています。

詳しくは、次の「確かな学力」ステップアップ事業HPをご覧ください。

<http://www.ypec.ed.jp/gimukyo/>

「地域産業の担い手育成プロジェクト」（食・くらしを支える専門的職業人育成事業）について

— 高校教育課 —

【概要】

平成二十年度から三年間、文科科学省の「地域産業の担い手育成プロジェクト」と農林水産省の「地域連携農業高校実践教育推進事業」の連携プロジェクト研究指定を受け、本県の農業や林業建設業、造園業、食品加工などの地域産業を理解し、専門的な技術・技能を習得するために、県内農業系高等学校（北杜、農林、山梨園芸）と農家・企業・関係機関が連携を図り、

- ① 実践的技術を習得する生徒の現場実習
- ② 技術者等による学校での実践的授業
- ③ 教員の高度技術習得を目標とした研修
- ④ 農家や企業との共同研究

等に取り組みました。それぞれの取り組み過程では、PDCAサイクル型問題解決能力の醸成と地域産業を担う実践的技術を有する人材育成に努めました。

【背景】

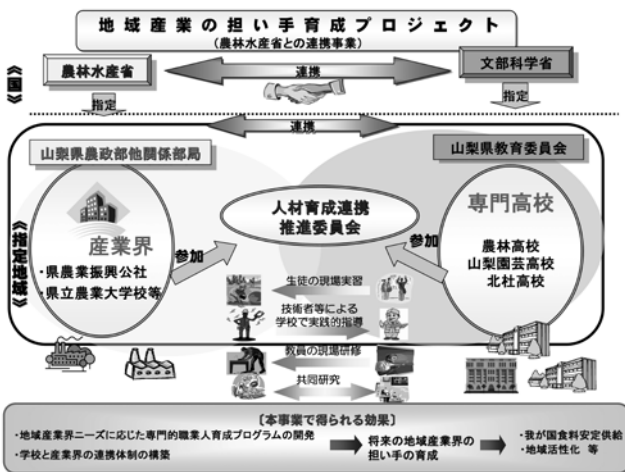
○産業界の現状と課題

本県農業は、首都圏に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を活かし、農業者の努力と高度な生産技術の確立などにより、果樹、水稲、野菜など特色ある産地を形成しています。特に果樹が農業生産額の五割以上を占め、ぶどう、もも、すももは、全国一の生産量を誇っています。しかし、従事者の高齢化等により、農業生産性の低下が危惧されています。これらの解決策として農業をはじめ関連する地域産業の担い手の育成が課題となっています。

○農業系高等学校の現状と課題

これまで地域に根ざした教育を展開し、特色ある高校づくりを推し進めています。農林高校では、これまでに「日本版デュアルシステム」の研究指定を受け、専門教育の活性化を図ってきました。また、それぞれの学校の生徒の多くが地域の産業界に就職しています。しかし、非農家出身者が多くなり、農業及びその関連産業の就農・就職上の受け入れ体制が不十分であるため、農業の担い手育成は現実的には、難しい状況です。

このため、県内の農業教育機関である農業系高校と専門学校山梨県立農業大学校が、連携し継続的・系統的な農業教育をしていくことで、「まず、



概要図

食・農・くらし人材育成イメージ

地域産業の担い手育成
生徒・教員の技術・技能向上、地域連携強化
農家・企業＋農業系高校＋関係機関



これらの現状と課題から、概要図の人材育成連携推進委員会が中心となる事業執行を行いました。

農業に関心を持つことや地域の実態や地域産業について知る機会にしていくことが将来の担い手確保につながる」と考え、平成十九年度に農業系高校と山梨県立農業大学校とが連携教育の協定書を取り交わしました。また、平成二十二年五月には、新設された笛吹高校を加え再締結いたしました。そして、①プロジェクト研究の相互交換に関すること、②教育発展に向けた情報交換に関すること、③指導者の相互派遣、学生・生徒の研修に関すること、など教育交流を行っています。

○農業系高等学校へのニーズ

産業界が求める人材像と生徒が身に付けた職業観・勤労観の高さやキャリア能力との格差が指摘されることが多く、農家や企業連携による実践的な技術指導の必要性があります。

【目的】

生徒の地域産業への理解を促進するとともに、専門的な知識・技術・技能の向上や資格取得の向上を図り、プライドを持って、専門学習に取り組み、勤労観・職業観を育むことを通じ、①農業後継者の育成（含む農業系上級学校への進学後の就農）、②地域の農業と食・環境に関連する産業技術者の育成、③地域の農業を理解し農業の振興に積極的に関与できる人材の育成、また、ほとんどの生徒が非農家であるという現状から農地を取得しての就農が困難である以上、新しい動向である農業生産法人などアグリビジネスにより興味・関心を持たせる人材を育成することを目的としました。

そして、さらに地域社会を担うという観点も加え、④地域や地域産業の動向に関心を持ち、地域産業を直接・間接的に支えていく意識を持った人材を育成する。等の現実にも目を向けた生徒像を指しています。

【目標】

- 生徒・教員・保護者の満足度 八十%以上
- 農家・関係企業の満足度 八十%以上
- 農家・関係企業実習等への参加生徒数 延べ八九八名以上

○高度技術習得の現場研修への参加教員数 延べ二十名以上

○本事業への参加企業数 五十社以上

○技能検定合格者、資格取得者 八九八名以上

○農業系高校生の県内企業への就職率 九十五%以上

【実践研究】

○農業系上級学校への進学者 九人以上
 各校各学科の現場実習や見学、技術者による講

義実習を検討し、教育現場では十分に指導のできない面や新しい技術を伸長するために農家・企業・関係機関等との協力を得て、実施しました。農業系高校での特徴の一つであるプロジェクト学習法をさらに深めるために農家・企業との共同研究を取り入れました。

①生徒の現場実習・現場見学

高校生が農業・林業など食や暮らしに関わる現場の実情を認識するとともに、学校では体験のできない実践的実習を行いました。実践的な技術・技能の習得や職業観の向上が見られました。



農家による苗木植え付け指導

現場見学は、企業の製造現場や工事現場、販売現場などを見学し、ものづくりや地域産業についての理解を深めました。

②技術者等による学校での実践的指導

農家、農業大学校講師、建築業、製菓会社など企業人等による農業高校生の技術・技能向上や実践的な知識習得を目的に、実践的な教育プログラムの開発を進めました。

平成二十年には、延べ六五九名、平成二十一年には、延べ八九四名の生徒が参加しました。

③教員の高度技術習得

モモの仕立て法、切り花生産技術、野菜栽培

技術、市場研修等を行いました。

④農家・企業との共同研究

農家・農業大学校とのサクランボ整枝法の改良、製菓会社との地域特産品果実を使用した商品開発などを共同研究しました。生徒は、ものづくり技術のおもしろさ、奥深さを知ることができました。

【事業の成果と課題】

○成果

- ①生徒・教員・企業等 満足度は八十%以上であり、生徒は、地域や地域産業との連携により、学ぶ目的が明確化し、学ぶ意欲、働く意欲、働く姿勢が向上しました。
- ②農業大学校等への進学者の増加
- ③教員の学校外ネットワークの構築
- ④地域との共同研究の充実等設定した目標を達成することができました。

○課題

- ①事業展開の拡大と協力企業の開拓
- ②企業実習プログラム開発
- ③地域に密着した共同研究の実践

【まとめ】

得られた成果を今後は農業系高等学校全学科で普及を図り、本県や食暮らしに関わる産業の人材育成を進めていきます。地域産業全体へ更なる貢献ができれば幸いです。



地元企業との特産品開発

青少年長期自然体験活動事業

「フロンティア・アドベンチャー」やまなし少年海洋道中」を実施して

— 社会教育課 —

一 事業の目的

本事業は、青少年に心の豊かさやたくましさ
を育むとともに、地域のリーダーとしての資質
向上を図ろうとするものです。八丈島の大自然
を舞台に、八泊九日に及ぶ野外活動生活を行
い、友情・連帯・奉仕・開拓・交流の精神を涵
養します。

二 事業の内容

本事業は、昭和六十三年から行われており、
本年度で二十三回目となりました。県内全中学
校を通して参加者を募り、八十一（男五十・女
三十一）名の応募があり、抽選会を経て五十（男
女共二十五）名が参加しました。

①事前説明会（六月十三日）

健康面の把握に主眼をおいた面接の実施、
事業の詳しい内容・準備等の説明や連絡、事
前研修までの課題を提示しました。

②事前研修（七月三〜四日）

集団（全体・班）作りを中心に、野外炊飯
やテントアップ・ブレイク等野外活動のスキ
ルアップやスノーケルの実習を行い、現地研
修に備えました。

③現地研修（八月一〜九日）

片道およそ十時間に及ぶ船での生活（往路
は船中泊）、テントアップやかまど作り等キャ
ンプサイトの設営、野外炊飯、二度の八丈島
小中学生との交流、スノーケル体験、漁業体
験（くさや工場の見学と漁船でのクルージン
グ）、サバイバル踏破（島内で野宿しての一
泊二日）、自主企画（参加者一人一人の企画
による八丈体験）、テントサイトの撤収等、
様々な体験活動を行いました。

④事後研修（八月十八日）

現地研修の反省を行い、八丈島で交流した
小中学生が、島外体験として山梨に来県した
機会に、三度目の交流会を行いました。

三 事業の成果

アンケート等の結果によると、次のような成
果があげられます。

- 長期の集団生活の中で、様々なトラブルを経
験し、それを乗り越えることができた。
- 長期の集団生活を体験することにより、「が
まん強さ」「やさしさ」「楽天的な思考」が身
に付く機会となった。
- 雄大な自然の中での直接体験が、参加者に大
きなインパクトを与え、自然に対する新しい
見方を持つようになった。

○積極性・自主性が増した生徒が多く、前向き
に日常生活を送るようになった。

また、「PRR（生きる力）評定用紙（簡易版）」
を用いた分析からも、自主性・明朗性・判断力
や身体的耐性について、効果的であり、「生き
る力」を育む上で有効であるとする結果が得ら
れました。

昨今、青少年期における体験活動（特に自然
体験活動）の重要性が叫ばれていることから、
有意義な事業となっております。

※今年度の様子は、県庁内ホームページをご覧
下さい。併せて、事業報告書も御一読くださ
い。

[http://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/
H22houkokusyo.html](http://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/H22houkokusyo.html)



平成22年度 新体力テスト・健康実態調査 結果の概要

— スポーツ健康課 —

*県教育委員会では、児童生徒の健康・体力の向上と、体育・スポーツ活動の指導上の基礎資料として活用することを目的に、平成17年度より県内全公立小・中・高等学校児童生徒を対象にした「新体力テスト・健康実態調査」を実施しています。この調査結果の分析・考察につきましては山梨大学（保健体育講座・生涯スポーツ健康科学コース）に委託しており、この度、調査結果がまとまりましたので、その概要についてお知らせいたします。

1 調査の概要

- (1) 調査内容 新体力テスト（8種目）
健康実態調査（10項目）
- (2) 実施時期 平成22年4月～7月
- (3) 実施率 100%
県内公立小（196校）・中（91校）・高（全日33校、定時8校）全て実施
- (4) 実施人数
合計 90,350人

2 調査結果の概要

- (1) 体力・運動能力の実態
- 共通3種目（握力・50m走・ボール投げ）について継続的データを見ますと、昭和50年代をピークに低下傾向が見られましたが本調査を開始した平成17年頃からほぼ横ばい傾向を示していることから、本県の児童生徒の体力低下にある程度の歯止めがかかったと言えます。
- 体力合計点の平均値は、平成17年度と比較し、男女ともに連続した改善傾向が見られています。したがって近年は微増ではありますが着実に体力が向上していると言えます。しかしながら、全国と比較しますと女子の14～16歳においてはやや全国レベルを上回りましたが、他の年齢及び男子においては依然低い水準にあります。各測定項目別に見ますと、本県児童生徒の体力・運動能力の特徴として、筋力・柔軟性といった体力要素と比較し、走・跳・投など技術や身体操作性が求められる運動能力が低い傾向が見られます。
- 総合評価から体力の傾向を見ますと、平成17年度から優れているA・B評価の割合が増加し、劣っているD・E評価の割合が減少しており、わずかではありますが改善の傾向が見られています。

(2) 健康実態調査における生活習慣と体力の傾向

- 平成17年度からの推移を見ますと、全体的に5年間において改善傾向が見られました。特に中学校・高等学校の改善率が高いのですが、小学校低・中学年においては生活習慣の低下及び停滞傾向が見られました。
- 運動習慣については、男女ともに中学校期を境に「運動をしない」傾向が高まり、特に女子の「運動をしない」傾向は男子より早く訪れ、その割合も大きいです。男女ともに運動の実施頻度と体力合計点の間には比例関係が見られました。
- 朝食摂取については、男女ともに13歳以降「毎日食べる」割合が低下傾向にあり、「毎日食べない」割合が増加傾向にあります。「毎日食べる」児童生徒の体力合計点は高い傾向にあります。
- 睡眠時間については、男女ともに加齢に伴い減少します。小学校期では6時間未満の児童の体力合計点は低い傾向が見られましたが、高等学校期になるとむしろ8時間以上の生徒の体力合計点が低い傾向が見られました。

3 今後の課題

調査開始から6年間で全体的な改善傾向は見られています。しかし、基礎的な体力要素と比較し、技術や身体操作性を伴った運動能力に課題があります。したがって各学校においては、体育・保健体育の授業の中で発達段階に応じて基本的な動きを身に付けながら、基礎的な技能の向上を図ることのできるような教材研究や実践のあり方を充実させることが重要です。

また、小学校低学年からの健康的な生活習慣の確立に向けた継続的な取組をするとともに、家庭での健康的な生活スタイルや生活リズムの意識及び行動のあり方を再考していくことが必要であり、学校から保護者への啓発を図ることがより一層求められます。

<調査結果掲載ページ>

<http://www.kai.ed.jp/tairyoku/tairyokutest/index.html>



モーリス・ドニ いのちの輝き、子どものいる風景

— 県立美術館 —

モーリス・ドニ(1870-1943)は、19世紀フランスで活躍した象徴派の画家です。神秘的な主題を多く描いたドニですが、近年、「家族」や「子ども」も重要なテーマであったことが指摘されています。本展は、描かれた家族や子どもたちの成長をたどることで、ドニの芸術の変遷を再考する日本で初めての試みです。

北フランスに育ったドニは、18歳で画家を志し、パリに移り住みます。美術学校に入学するものの、伝統的な技法ばかりを教える授業に飽きたらず、そこで知り合った友人たちと、新しい絵画を模索し始めました。当時のパリでは自然を模倣するだけでなく、人間の内奥を描こうとする動きが生まれていました。ドニと仲間たちは、純粋な色彩と単純な形態を生み出したゴーギャンに憧れて、「ナビ派」(ヘブライ語で預言者の意味)と呼ばれるグループを結成しました。

モーリス・ドニといえば、まずはナビ派のリーダーとして紹介されます。しかし、実際にはナビ派の活動はごく短いものでした。ナビ派が解散した後、熱心なカトリック信徒であったドニは、芸術と信仰が調和した情熱的な作品をつくりあげました。また一方で、衝立パネルやステンドグラス、舞台美術など、装飾美術の分野でも優れた作品を残しています。しかし、こうした幅広い作品のなかに変わりなく流れているのは、神に守られた平和のイメージでした。ドニは優美な曲線と神秘的な色彩によって、幸福なイメージを身近な風景の中に描き込みました。

ドニの作品には、子どもや家族の親密な情景が頻繁に登場します。パリ郊外の自宅や、ブルターニュでのヴァカンス、海外旅行まで、あらゆる場面でドニは愛する子どもたちを描きました。ある時は神話や聖書の物語のなかに、ある時は装飾画のなかにも、その姿を発見出来ます。ドニにとって「子ども」という存在は、家族の枠組みをこえた「生」の象徴であったといえるでしょう。

本展は世界初公開作品を含む約100点を展示します。美しい色彩が奏でる家族の絆に囲まれて、癒しのひとときをお過ごしください。



《家族の肖像》1902年 個人蔵 フランス



《ボクシング》1918年頃 個人蔵 ベルギー

当館では、校外学習ほか、クラス・部活単位でも見学を受け入れています。

会話やクイズ形式で作品の解説を行い、ただ「見る」だけではわからない、作品の秘密に迫ります。

土曜日は子供たちの観覧が無料です。業務視察も可能です。

また、5月17日(火)午後4:00から、教師のための鑑賞会を開催します。お気軽にお問合せください。

会 期：4月16日～6月12日

料 金：一般1000円 大・高生500円

中・小生260円

北斎の富嶽三十六景（県立博物館開館五周年・葛飾北斎生誕二五〇年記念特別展）

— 県立博物館 —

富士に寄せる篤い信仰と親愛の情を、日本人はいにしえより美術や文学に繰り返し表現してきました。数え切れないほど多く描かれた富士の絵画のうち、世界で最も親しまれているのが、葛飾北斎の「富嶽三十六景」です。

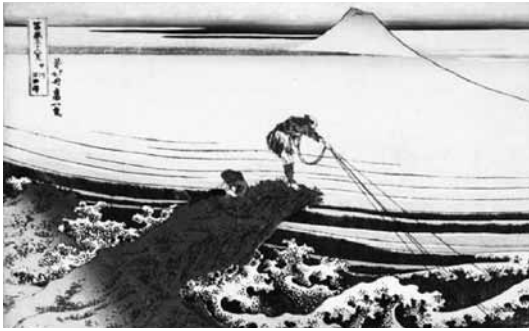
本展では、全四十六点に加え、北斎が富士図にかけた想いや、甲斐との関わりが見える作品を通じて、北斎の人となりを紹介します。

□北斎の富嶽三十六景

天保二年

（一八三一）頃、

七〇歳を越えた北斎は、富士の錦絵連作「富嶽三十六景」を出版しました。季節や場所、時間によってうつり変わる富士の姿を、北斎は鋭い観察眼でとらえ、ウィットに富んだ発想で味付けし、斬新な構図と卓抜した描写で表現しました。今もお、世界中に日本の富士の魅力と、富士に寄せる日本人の思いを伝え続けています。



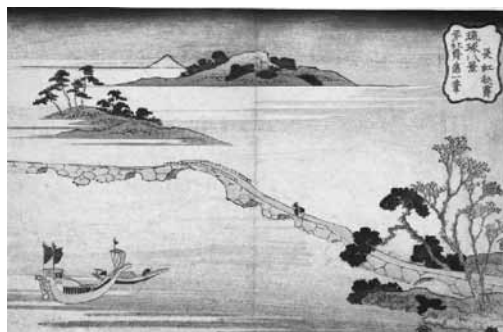
「富嶽三十六景 甲州石班澤」
富士川の急流に網打つ漁師

□北斎の富士

「富嶽三十六景」以前、北斎は読本の挿絵や狂歌を伴った摺物、東海道五十三次などの錦絵の中で、富士山を点景として描き込んでいました。富士を描くことへの興味は、次第に富士の連作構想へと拡がりました。さらに「富嶽三十六景」後も描き切れなかった分を絵本『富嶽百景』の制作などにぶつけました。

□北斎と甲斐の国

北斎が甲斐の国を実際に訪ねたという記録は確認されていませんが、北斎の作品の中に多くの甲斐の景観を見いだすことができます。それらには、現在では失われてしまった景色や風俗、地名が記録されています。また、北斎が下絵を描いたと伝える谷村下町の八朔祭屋台幕も展示します。北斎の作品から江戸時代の文化やくらしを読み解く楽しさをぜひ味わってください。



「琉球八景 長虹秋霧」
琉球の風景にまで富士の姿が



「千絵の海 甲州火振」(4/13～5/9に展示)
夜、火を焚いて魚をおびき出す。今は廃れてしまった漁。夜空の描写は欧米の芸術家を驚かせた。

会期 平成二十三年三月十九日（土）～
五月九日（月）*展示替があります。

観覧料

*常設展観覧券で観覧可能

一般 五〇〇（四〇〇）円

高・大生 二二〇（二六〇）円

小・中生 一〇〇（八〇）円

*小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は土曜日無料。

*六十五歳以上の方、障害者手帳をご持参の方は無料。

*（ ）内は二十名以上の団体、県内宿泊者の割引料金。

平成二十三年春の企画展
「文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫…」
— 県立文学館 —

日本映画の百年以上にわたる歴史を振り返ると、森鷗外、夏目漱石、樋口一葉、井伏鱒二、松本清張、山本周五郎、井上靖など、小説作品を原作とした映画が数多く制作されてきました。日本映画の発展には、文学者の優れた作品が、絶えず関わり続けてきました。

本展では、東京都在住の畑三郎氏（映画史研究家）の映画関係のポスター、スチール写真、パンフレットなどのコレクションを軸に、原稿などの文学資料とともに約二百点の資料により、文学と映画の関わりを紹介し、日本映画に取り込まれた文学の魅力をお見せいたします。

本展の文学資料の展示としては、映画表現に強い関心を示した作家である谷崎潤一郎、泉鏡花、川端康成、三島由紀夫を中心にとりあげます。特に、谷崎潤一郎（一八八六〜一九六五 東京生まれ 小説家）は、一九二〇（大正九）年五月、横浜に大正活映株式会社が発立すると、脚本部顧問に招かれ、初のシナリオ「アマチュア倶楽部」を書き上げ、続いて「葛飾砂子」（泉鏡花原作）の製作に携わるなど、映画に対する旺盛な意欲を見せます。一九二三（大正十二）年九月の関東大震災の被害により、関西に移住した谷崎は、映画製作の現場からは離れますが、その後も「痴人の愛」「春琴抄」「細雪」など多くの作品が映画化されています。

このほか、日本映画が全盛となる一九五〇年代から六〇年代を中心に、文学作品を原作とする映画を、ポスターなどの映画資料により紹介します。また、文学館を校外学習で御利用いただくことができます。学芸員による展示解説や、展示資料に関するクイズ企画なども用意いたします。業務視察も可能です。お気軽にお問い合わせください。

◆会期

四月二十九日（金）〜六月十九日（日）

◆観覧料

- 一 一般 六〇〇（四八〇）円
- 大・高生 四〇〇（三二〇）円
- 中・小生 二五〇（二〇〇）円
- （ ）内は20名以上の団体料金です。

県内在住の65歳以上の方、障害者及び介護者、土曜日の小・中・高・特別支援学校生の観覧は無料です。

【関連企画】

◆講演会

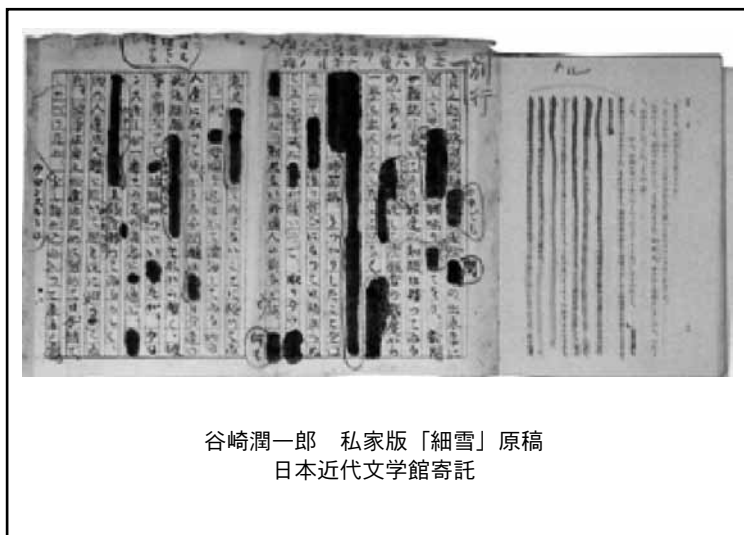
- 「小沢昭一的 映画のこころ」
五月七日（土）午後二時三〇分
小沢昭一（俳優）
- 聞き手 遠藤三郎（元映画監督・元東京工芸大
学教授）

※入場無料、当館まで電話かFAXでお申し込みください。（定員五〇〇名）

◆映画鑑賞会

- ・四月二十四日（日）「砂の器」
- ・五月十五日（日）「洲崎パラダイス 赤信号」
- ・五月二十九日（日）「細雪」
- ・六月五日（日）「古都」
- ・六月十二日（日）「彼岸花」

※いずれも午後一時三〇分〜、入場無料、申込不要、定員五百名。



谷崎潤一郎 私家版「細雪」原稿
日本近代文学館寄託

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

なかとみ現代工芸美術館 (身延町)

当館があります身延町西島地区は、武田信玄に仕える武士であった望月清兵衛が1571年に西島に製紙技術を伝えたことから始まり、400余年の伝統をもつ、手すき和紙の産地です。今年で開館12年目を迎えた当館は、文化を継承する心が生きるこの地域で、日常生活の中にある豊かさを発見し、自分自身の豊かさにつなげていただける場所を目指しております。

紙・陶磁器・染色・漆、ガラス・革・金属・七宝など多彩な材料と技法を駆使して生まれる現代工芸の作品のほかにも、日本画、洋画、書、彫刻など、さまざまな分野・年代の作品群と特色あるテーマによる企画展を、年に7回ほど開催しております。

敷地内には、西島和紙をはじめとし、全国の和紙を展示・販売する紙屋なかとみと、和紙の紙漉き体験ができる漉屋なかとみも隣接されております。

住所 南巨摩郡身延町西島 345

電話番号 0556 - 20 - 4555

FAX 番号 0556 - 20 - 4557

休館日 火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）
 入館料 一般 500円（450円）
 大・高校生 300円（270円）
 小・中学生 100円（90円）
 （ ）内は20名様以上の団体料金
 駐車場 大型バス6台、普通車55台、無料
 H P <http://www.town.minobu.lg.jp/washi>



河口湖美術館 (富士河口湖町)

富士五湖地方で初めての公立美術館として1991年4月に開館しました。富士箱根伊豆国立公園内、河口湖東北岸の湖を望む場所に位置する自然環境に恵まれた美術館です。

富士の麓の美術館であるゆえ、コレクション活動の中心は「富士山」。巨匠から若手まで、様々な表現による作品—日本画、洋画、版画、写真など約450点の富士山コレクションを収蔵し、展示替えをしながら20～30点を常設展示で公開。

また、常設展示と並行しながら、様々な内容の企画展を年間4～5本開催しています。生涯学習系施設として地域住民に美術品鑑賞の機会を提供するとともに、観光地の

拠点施設の一つとして、美術による利用者の心のレクリエーションとなるような活動を行っています。

住所 南都留郡富士河口湖町河口 3170
 （無料駐車場あり）

電話番号 0555-73-2829

休館日 火曜日、展示替えのための休館
 （不定期）、年末の休館

開館時間 9時30分から17時まで（入館は16:30まで）
 ※ 冬季短縮あり（要問合せ）

入館料 一般・大学生 800（720）円
 高校生・中学生 500（450）円
 カッコ内は8名以上の団体料金



建物外観池方向から



建物館内ギャラリー



建物館内喫茶



らくがき



虎と善意
中込繁樹

二声三声咆哮して再びその姿を見せなかった虎は異類の身となった李徴である（中島敦「山月記」）。再び世にその名を現した虎は、我が幼少時のヒーロー、タイガーマスクである。仮面の虎の善意は瞬く間に全国に広がった。報道によってもたらされるのは、いじめや自殺などの悲しみの連鎖だけではなく、善行の連鎖があることを知り、救われた思いがした。李徴は尊大な羞恥心故に人交わりを断ってしまったが、こちらは仮面の下の素性を明かさぬ謙遜さが世に受け入れられた。

4月からは、本校にも、その善意のランドセルを背負ったかわいい一年生が通ってくる。学区に養護施設があるからだ。タイガーマスクの善意の意志を、教育という場で受け継いでいく順番が回ってきた。子どもたちが明るく健やかに学校生活を送ることができるように、尽力していかなければと思う。本校は、どの職員もみんな優しく熱意ある方ばかりだ。安心して通っておいで、と伝えたい。

自分のことよりも妻子である他者のことを慮る大切さに気づいた李徴も、山頂の巖の上で喜びの咆哮をあげていることだろう。

（甲府市立新紺屋小学校）

突然の贈り物
深沢裕也

新年早々、手紙が届いた。差出人を見て、一瞬考えたが、すぐに誰からの手紙か思い当たった。住所が「神戸市長田区」になっていたからである。その手紙は、私が教師生活をスタートさせ、3年間教え（教えられ）た生徒の保護者からだった。

大変嬉しかった。と同時に、7年前に送り出した生徒の、保護者からの手紙であったこととその手紙の内容に、私は驚かされた。

その生徒（女子）を、私は2年間担任した。彼女には双子の兄がいたが、担任をしたことはなかった。手紙には当然、2年間受け持った彼女（妹）のことが書いてあると思っていたのだが、違った。「高校合格の際、深沢先生が一番喜んでくれたと、息子が今でも申しております。本当に嬉しかったようです」と記されていた。初めて聞かされたことである。確かに、私は彼（兄）の合格発表の引率をしていた。彼は受験した6人の中で、一番可否を心配した生徒だった。

私のとった「一緒に喜び」という一つの行動が、今でも彼の中に良き思い出としてある。それを考えると幸せな気持ちになったが、同時に教師という仕事の責任の重さを、改めて思い知った。何気ない言動が生徒に大きな影響を与えることもある。

私は今、3年生の担任をしている。進路に向けて大詰め時期。迷い、悩み、焦り、不安と闘う15歳。彼らと共に、悩み、心配し、そして最後には思いっきり喜びたい。そう思った。突然の保護者からの手紙に心が温まった冬休みだった。（南部町立富河中学校）

「第8回わたしたちの研究室」優秀作品の発表と展示のご案内

県立考古博物館

この研究室は、小・中学生が考古学や歴史の楽しさを知り、興味を持つ機会とするために県立考古博物館が毎年実施しているものです。今年度の応募作品総数は286点、参加総数は395人になりました。個人研究部門では、小・中学生の児童生徒が自由なテーマで取り組んだことや統一したテーマで取り組んだ個人研究・作品を、団体研究部門では、学級・学年・学校で行った研究または統一したテーマのもとで研究した児童・生徒個人の成果をとりまとめたものを対象としています。今年度の最優秀賞・優秀賞受賞者は次のとおりです。

- 個人研究部門・小学校の部
 - 最優秀賞 飯山舞優さん（東桂小4年）
「縄文土器はおなべとして使えたのか？」
 - 優秀賞 薬袋曜平さん（豊富小6年）
「縄文時代」

- 優秀賞 田中 凜さん（双葉西小4年）
「すばらしい古墳」
- 個人研究部門・中学校の部
 - 最優秀賞 小関里歩さん（山梨英和中2年）
「よみがえる土器」
 - 優秀賞 小倉楓子さん（都留第二中1年）
「私の住んでいる田野倉・小形山史跡調査」
 - 優秀賞 中江知穂さん（都留第二中1年）
「六地藏がつくられたわけ」
- 団体研究部門
 - 最優秀賞 増穂小4年
「発見！ふるさと増穂のみみつ」
 - 優秀賞 都留第二中1年
「身近な地域の歴史を調べよう」



最優秀賞授与式の様子（昨年度）

★応募作品展示会

開催期間：平成23年2月8日（火）から
3月6日（日）まで

場 所：県立考古博物館特別展示室

※来年度も「第9回わたしたちの研究室」を開催します。詳しくはお問い合わせ下さい。

県立考古博物館学芸課

TEL 055-266-3881

日本一の学校をめざして

～家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる、しなやかに開かれた学校～

南アルプス市立南湖小学校

高さ5階の「地域学習室」からは、眼下に地域特産のトマトやキュウリを栽培するビニールハウス、遠くには南アルプスをはじめとする「やまなみ」を360°のパノラマで一望することができます。創立123年を迎えた今年は新しい体育館も完成し、施設・設備の面でも大変充実しています。

◇絆を深める「たてわり活動」

本校の一日は、「あいさつリーダー」によるあいさつ運動からはじまります。「たてわり」による活動が盛んで、ふれあい遊び集会やふれあい給食が定期的に行われ、ウォークラリー・新春ゲーム集会等により、異年齢集団の絆が深まり、全校257名の児童がいじめや不登校のない楽しい学校生活を送っています。

読書活動も活発で、朝読書はもちろん、図書委員と教職員による読み聞かせや全校児童・教職員による「だいすきな本の紹

介」、ふれあい親子読書、図書集会等、年間を通してたくさんの本に触れることで、読書への関心を深めています。

◇地域に開かれた学校のシンボル「収穫祭」

最も特色ある本校の行事は11月の第2土曜日に実施している収穫祭です。総合的な学習の時間の中で、農業ボランティアの協力を得ながら各学年に応じた農作物づくりに取り組み、当日は発表の場を兼ねて保護者・祖父母を含む地域の人々を招待し、手作りのクッキーやポップコーン、お餅、おにぎり、スイートポテトを味わってもらったり、農作物クイズ・パネルセッションに参加してもらったりしています。

本校の合言葉は「日本一の学校」です。確かな学力の向上でもこのことを実現すべく、研究主題「他と関わって問題を解決していける児童の育成」のもと、「学びの質を高める授業づくり」に取り組み、11月には公開研究会を実施しました。



地域学習室と新体育館



収穫祭6年生のお店



公開研究会での授業

知肢併置特別支援学校として

県立ふじざくら支援学校

本校は、平成8年度、県内で初めて知的障害と肢体不自由を対象とした学校としてスタートしました。開校当初、児童生徒数61名・20学級だった規模は、現在では、120名・34学級まで増加しました。

平成18年度からは医療的ケアを必要とする児童生徒のために看護師による医療的ケアを、翌年には訪問教育をそれぞれ開始しました。年々、障害の重度重複化、多様化が進んでいますが、一方で肢体不自由単一の児童生徒も少数ですが在籍しています。それぞれの児童生徒に応じた教育課程を編成し、個々の力が十分伸ばせるようなきめ細かな教育を目指しています。

また、盲・ろう学校との連携も行いながら、様々な障害種へのよりよい対応を心がけています。

◇教育課程

様々な実態の児童生徒に対応するために5つの教育課程を設定しています。

◇学習集団

個に応じた指導を大切にしながら、学級、学年、学習グループ、学部等の集団による学習を工夫して実施しています。学級編成は障害種別ですが、知的障害と肢体不自由の児童生徒と一緒に活動をする場面は数多くあります。活動上、安全面への慎重な配慮が欠かせませんが、障害を越えた児童生徒同士の交流の場を保障しています。

このような特別支援教育に転換する以前から実践してきた総合的な教育は、本県のみならず、全国的にも先進的な取組となっています。



小学部低学年ブロックお誕生会



中学部水泳教室（河口湖町民プール）

面接相談から「先生、あわてているね」

—総合教育センター相談支援部—

本センター相談支援部教育相談担当は、面接相談や電話相談を通して、いじめ・不登校等で悩んでいる児童生徒や保護者を支援しています。

面接相談は、カウンセラーの基本的な態度である「受容・共感・自己一致」を大切にしながら、行っています。原則的には、保護者と子どもそれぞれをセンター職員である相談員が担当し、面接をします。子どもに対しては、プレイルームやセンター敷地内を使って、話をしたり、自由に遊んだり、何かを作ったりして、自己表現できる機会をつくっています。また、保護者に対しては、子どもの力を発揮しやすくするためにはどうしたらよいか、共に考え、再登校に向けて支援しています。

面接相談の様子を紹介します。

小学生男子Aさんは、朝になるとお腹が痛いと訴えて登校を渋るようになりまし。母親が理由を聞くと、「学校へ行くと殺される」と答えました。外出することもほとんどなくなり、センターへ来談することになりました。

面接相談が始まった頃の母親は、どう対応したらよいか分からない状態でしたが、学校行事などを利用して登校させる努力はしていました。一方、父親は、母親に非協力的で、力づくで何とかしようとしていました。

担任や校長先生は家に迎えに行き、学校へ連れて行くこととしますが、Aさんは車から下りませんでした。

センターに来談したAさんは、最初プレイルーム内でチャンバラや撃ち合いゲームなど、戦いの遊びを好みました。机や椅子を使って、それぞれ自分の陣地をつくり陣地内から攻撃し合います。でも、Aさんの陣地の守りはとても強固でした。やがて陣地から出て、剣を何本も持って、相談員に容赦なく打ち込むようになりまし。相談員も負けじと戦いますが、Aさんの攻撃と守りはとても強く、相談員は歯が立ちません。Aさんは「もつと強く攻撃してよ」と要求するほどでした。



プレイルーム

面接相談が進むと、母親は「Aの気持ちや学校へ向くのは、明日かも知れないし、明後日かも知れない」と考えられるようになり、母親の気持ちに変化してきました。学校でも登校への働きかけを緩やかに続けるようにしていました。そんな時期に、Aさんは保健室登校を始めました。センターでの遊びも変化します。外に出て、池でザリガニ釣りを始め、遊ぶ様子も元気そのものに感じられるようになりまし。

そんな時期のある日のこと。今にも餌を挟もうとしているザリガニをなんとか釣らせたいという気持ちになっている相談員が、「ほら今だ！」と声をかけるとAさんは、

「先生、あわてているね」

相談員は、Aさんの言葉にドキッとしました。学校でも同じようなことがあったからです。Aさんは、保健室で給食を食べるようになり、校長先生が勉強を教えてあげられるようになっていました。そろそろ教室へと考えた先生が手を引いて誘った日、Aさんは早退してしまっ。そうす。

面接相談はその後も続き、撃ち合いゲームや鬼ごっこ、室内で五目並べと、遊びの内容や質も変わっていきまし。父親と一緒に来談することもあり、父親とAさんとのスキンシップも多くなりまし。母親の焦りはほとんどなくなり、肩の力も抜けたようす。

やがて、一日学校に居られるようになり、教室へ自分で行くようになりまし。

このように面接相談で大切にしていることは、問題の解決に向けた来談者への働きかけではなく、来談者の主体性を尊重することす。それは、安心感や安全感がもてる環境の中で、自由な表現をすることで、本来の「わたしらしさ」やもともと持っている力を発揮できるようになり、やがて問題や症状が改善されると考えているからす。

まいぶんイベント情報

埋蔵文化財センター

当センターでは、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めてもらう場として、例年3月から4月にかけて各種のイベントを計画しております。身近な歴史に触れるまたとない機会ですので、是非足をお運びください。

① 知ろう山梨の歴史！「山梨の遺跡展 2011」

平成22年度中に実施した県内各地での発掘調査並びに整理作業の成果を出土遺物や写真・解説パネルの展示により紹介し、いち早く一般の方々に公開いたします。

会 期：平成23年3月12日（土）～4月10日（日）

出展遺跡：甲府城跡、梶畑B遺跡ほか

会 場：県立考古博物館

入 場 料：無料 ＊駐車場あり

② 「遺跡調査発表会」

平成22年度中に県内で発掘調査された遺跡の中から、特に注目を集めた遺跡について、各調査担当者から映写をまじえながら、わかりやすく説明していただきます。また、出土遺物の展示も合わせて行います。

日 時：平成23年3月12日（土）13:00

発表遺跡：金生遺跡、甲斐国分寺跡、三ヶ所遺跡、

百々・上八田遺跡、甲府城跡

会 場：帝京大学山梨文化財研究所

入 場 料：無料 ＊駐車場あり

③ 第3回「昔覚ゆる甲府城」展

～築城技術と甲州大工文化～

平成2年度より進められてきた舞鶴城公園整備事業により復元・修復された歴史的建築に焦点をあて、その技術的な資料や新知見を中心に、大工道具やそれらに係る出土遺物の展示を通じて、築城技術と甲州の大工文化の歴史について紹介いたします。また、企画展開催中、4月10日（日）に記念講演会を行う予定となっております。

会 期：平成23年4月8日（金）～17日（日）

会 場：甲府城稲荷櫓

入 場 料：無料

◆お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター

電話 055-266-3016 FAX 055-266-3882

URL:<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>



レファレンスの道具箱 テーマ別調べ案内

◇山梨県の建造物(近代)について調べる◇

県立図書館

調査報告書から調べるには

『山梨県の近代化遺産』（山梨県教育委員会 1997年刊）

平成7年、江戸末期から終戦までに近代的手法によって作られた産業・交通・土木に関する建造物について、全県的に所在を調査した記録。主な75件の建造物について概要や紹介しています。

『旧山梨県立図書館（山梨県庁第一南別館）記録保存調査報告書』（山梨県教育委員会 2010年刊）

貴重な建造物が修理または解体される場合に調査報告書が作られる場合があります。昭和5年に県立図書館として建築され、県庁舎として使用された施設ですが、平成22年解体されました。

藤村式建築を調べるには

『山梨県史 文化財編』（山梨県 1999年刊）

県内の国や県市町村に指定された文化財を多数収録しています。近代建造物は明治期に建築された校舎を中心に収録されています。各建造物の詳しい解説に加え、主な建造物には平面図だけでなく、梁行断面図も掲載されています。

『山梨の洋風建築 藤村式建築百年』植松光宏／著（甲陽書房 1977年刊）

県令藤村紫朗氏によって建築が勧められた疑洋風建築について、山梨勧業製糸場など現存していない施設や小宮山弥太郎等建築に携わった棟梁についても解説しています。

『身延町地域資料』（<http://www3.town.minobu.lg.jp/lib/shiryou/index.html>）

日川学校など藤村式建築を数多く手がけた下山大工の棟梁、松木輝殷が引いた図面などが公開されています。

民家を調べるには

一昔前には県内各地に残されていた伝統的な様式と手法を用いた住居は、現在ほとんど見られなくなりました。その概観は残された古写真などからも調査することができます。

『山梨の草葺民家』坂本高雄／著（山梨日日新聞社 1994年刊）

主に明治大正期に建築された草葺き民家を、実地調査記録を元に解説しています。地域差の大きい屋根、間取りなど各部位の説明に加えて、家の普請方法や普請の際に口ずさまれた里謡も収録。

山梨の文化財

県指定有形文化財（建造物）

久遠寺 相輪塔（身延町上の山）

（平成二十三年 一月六日指定）

久遠寺相輪塔は、江戸時代に形成された身延山の霊域、上の山地域内にある久遠寺の支院、大光坊境内地に所在する仏塔で、塔身にある銘文から、天明元年（一七八一年）造立とされる。

幾度かの設置場所の変更を経て、昭和十一年に現在地に移設された。

相輪塔は、四本の支柱で支えられ、木製の芯に青銅板を張り付けたものとなっていて、一辺五・一m、高さ一・一四mの石積み基壇上に、花崗岩製の礎石と基盤として造られ、礎石上面から塔頂部までの高さは、七・四五mとなっている。

相輪塔は、近代以降に作られたものを含めて全国に十七基存在するが、それらの多くが九輪⁽¹⁾の相輪などで飾られているのに対して、久遠寺相輪塔は、笠塔婆⁽²⁾に五輪塔⁽³⁾を乗せた他に類例が少ない特徴的なもので、建造物として希少価値の高いものであるとともに、塔身十箇所にある銘文には、造立の経緯やこれまでの寺歴で認められていなかった事跡などが記され、歴史的、学術的に貴重な資料となっている。



- (1) 一五重塔などの頂上部にある九つの輪装飾
- (2) 塔身の上に笠を乗せ、頂上に宝珠もしくは相輪を立てた塔
- (3) 供養塔、墓塔として使われる仏塔の一種

主な行事予定

県立美術館

特別展

「モリス・ドニ

いのちの輝き、子どものいる風景

4 / 16 ~ 6 / 12

県立博物館

開館五周年・北斎生誕二五〇年記念特別展

「北斎の冨嶽三十六景」

3 / 19 ~ 5 / 9

県立考古博物館

特別展

知ろう山梨の歴史！

「山梨の遺跡展二〇二二」

3 / 12 ~ 4 / 10

県立文学館

企画展

「文芸映画のたのしみ」

4 / 29 ~ 6 / 19

表紙を飾る



作品タイトル

「親愛なる人魚姫へ」

（平成22年度県高等学校芸術文化祭美術工芸部門 芸術文化祭賞 受賞作品）

〈作品の紹介〉

この絵は私の好きな曲をイメージ化したものです。

絵を描いている時、なかなか筆が進まずもう諦めてしまおうかとも思いましたが、友達に「お互いがんばろう」と励まされ、奮起できました。絵を描くことは本当に自己との戦いなんだと、長かった道のりを振り返っています。受賞の結果が出たときは、苦勞した分喜びも一入でした。

指導者：石田泰道 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html